

今年も残すところあと一ヵ月。この一年も振り返ると、「あっという間だったな〜。」と思うのは、私だけでしょうか？こんなことを聞いたことがあります。ある心理学者の話では、年齢分の1のスピードで時間は進んでいく。5歳なら5分の1。40歳なら40分の1。つまり、5年しか生きていない人には一年が長く感じるということです。40歳の方は、社会をたくさん経験し、5歳の人よりは驚きが少なくなっている為、単調になり、時が早く過ぎるように感じる。という説です。私たちは、毎日、利用者さんの小さなことに気づき、感動や驚き、新たな発見があるように感じていましたが…。もしかして、どこかで単調になっているのかもしれませんが。毎年、「充実感」や「満足感」をしっかりと実感できる、そんな生活を送っていれば年齢に関係なく、充実し、満足感のある時間が流れるのかもしれませんが。来年の4月で「平成」という時代は終わります。みなさんは今、何を感じ、何を思いますか？（課長代理：辻原）

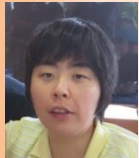
12月行事予定表

3日(月): 体重測定・血圧測定
7日(金): クリスマス忘年会
13日(木): 園内餅つき
19日(水): 健康相談

12月お誕生日
おめでとうございます



永田 三十六さん



政 みさ子さん



柳 輝美さん



松島 大志さん



里 喜美子さん



東條 和三さん



坂井 文也さん



定原 たず子さん 最



最上 順子さん



榮 敏郎さん

知根小学校 ～創立60周年～ 学習発表会

加させて頂きました。今回は、知根小学校創立60周年の記念すべき年であり、式典も併せて催され、多くの地域の方々に見守られながらの披露となりました。ジャンベ隊の取り組みを始めて、1年半が経ち、私たちジャンベ隊も自信がついてきた頃…。緊張感もある中で、手拍子を受けながらの暖かい会場の雰囲気を感じて、おもいっきり楽しむ事ができました。知根小第40回卒業生の私にとって、巣立った学校の記念すべき日に、愛の浜園利用者さん、児童の皆さんと過ごすこの時間は本当に幸せなものでした。何事においてもどんどん吸収する、心が柔軟な子どもの頃に、障がいをもった方々との交流があるこの知根校区は本当に恵まれている環境だと思います。それは卒業して20年が経った今、私自身がひしひしと感じている事です。育ててくれた地域の方々へ感謝すると共に、今度は私が恩返しをする番だと思っています。(記事：屋園)

気持ち新たに

気持ち新たに 11月12日～22日の9日間、
～実習を通して～ 大島養護学校から男性1名、女性1名の2名の実習生が、愛の浜園で実習を行いました。愛の浜園での実習は、男性は3回目、女性は2回目という事もあってか、慣れるのが早かったです。今回の実習では、引率の先生よりも園の職員と多く関わるように意識して受け入れました。班別活動や男性棟や女性棟で過ごし、二人とも笑顔もたくさん見られ、周りの利用者さんとも打ち解けた様子で実習を楽しんでいました。まだ若い二人の未来へのステップに少しでも関われた嬉しさと、今、愛の浜園にいる利用者さん達の為にまた頑張ろうと改めて思えるいい機会になりました。実習お疲れ様でした。(記事:恵)



グラウンドゴルフ大会



「シニアゴルフ大会」は天候不良で延期になっていましたが、11月26日(月)秋空の下、知名瀬はんごグラウンドゴルフ場で盛大に行われました。当日、根瀬部(ねせぶ)の「又瀬会」の方々は、諸事情により参加できませんでしたが、知名瀬(ちなせ)の「喜楽会」から14名、「ホート会」から8名の方々が参加し、我が「愛の浜園」の利用者精鋭部隊と交流大会を行いました。各ホールで歓声上がり、ホールインワンも続出。2ゲーム目も全員参加し、大いに盛り上がりました。また、来年もよろしくお願いします。(記事:小元)



知名瀨地区合同避難訓練

ま) 沖で地震が発生し、30分で津波が到来するという設定のもと、実際に、知名瀬地区の避難所になっている小倉(くら)神社まで徒歩と車で避難を行いました。小倉神社までの避難は、利用者の皆さんに何度も津波到達時間の声掛け等を行いながら進めましたが、利用者の皆さんも真剣な表情で移動をし、23分で避難完了する事が出来ました。訓練後に愛の浜園の多目的ホールで、参加した皆さんと過去の知名瀬地区での災害の事例等を改めて考える研修会を行い、最後まで緊張感のある訓練になりました。最後にこの記事を読まれた皆様も、今後起こりうる震災に向けて、しっかりと準備を整えて頂けたらと思います。(記事: 名島)



～リハビリ・腰痛予防の研修会～

〜リハビリ・腰痛予防の研修会〜

2月に引き続き、和月の白浜 幸高(しらはま ゆきたか)理学療法士を講師に招き、11月15日(木)にリハビリ、22日(木)には腰痛予防の研修会を行いました。リハビリではバランス能力をつける「片足立ち」や下肢筋力をつける「スクワット」などが大事であるとの話や5名の利用者さんについての情報を提供し、実際に利用者さんの状態や筋力などを確認した上でリハビリのアドバイスを頂きました。腰痛についての研修会では①介護の基本として、ノーリフト(持ち上げない介護)や笑顔の大切さなどの話があった後、②利用者さんからイメージするという事で移乗の仕方の映像をみて、いい点と悪い点を見比べて違いを確認し、最後に③腰痛がきたら…最初の対処が重要という事で、ギクッときた時の眠り方や移動の仕方、歩き方などを教えて頂きました。今後は生活や活動の中で教えていただいたリハビリを取り入れていき、腰痛に関しては支援(介護)の仕方の基本などを確認しながら利用者・職員共に負担が少ない方法で支援していきたいと思ひます。※ちなみに私は笑顔とスクワットから頑張りたいと思ひます。(記事:大田)



相談事業所（ていだ）

～地域が繋ぐ大切な想い～

先月、私が相談業務をしていた時の話です。私たち相談事業所「ていだ」のお客様のご家族(Mさん)からの相談でした。最初は愛の浜園の職員への相談があり「地域で困っている人がいて、話だけでも聞いてもらえませんか？」との事で、私たち相談事業所は、Mさんに電話をかけました。Mさんの知人の悩み事で、福祉サービスに関して、詳しい人が周りにいなくて困っているとの事でした。詳細を話す事はできませんが、その後、そのご家族と面談をし、自宅へ訪問、これまでの経緯や困っている事、将来への不安等を聞き、行政へ繋ぎ、現在も色々な福祉サービスを提案しているところです。今後、本人やご家族がどのような選択をするのか、もしくは、福祉サービスは利用しないかもしれません。それでも、私はそのご家族の不安に少しだけ寄り添えた気がしました。そう思えたのも、「ていだ」のお客様であるMさんからの最初の相談。それを繋いでくれた愛の浜園の職員。その一つ一つの想いが私たち相談事業所へ届けてくれたからでした。何気ない事かもしれませんが、世の中には、福祉関係者まで思いが繋がられなくて、今でも不安や困っている人がいると思います。その中で、地域の人が「困りごと」に耳を傾け、思いをもって届けてくれたその行動に感謝の気持ちでいっぱいです。地域の人が繋いだ想いを私たちは大切に、福祉サービスで、その人の「幸せ」へ繋がれたらと思います。(記事:辻原)

(努力賞)

三賞受賞者

- ・伊元 サチ子さん・自室の掃除を頑張りました。
- ・隈元 利彦さん…継続して洗面所の掃除を頑張っています。
- ・池田 ヨシエさん…入院生活を頑張り、元気に退院してきました。
- ・橋田 忠治さん…余暇時間にウォーキングを頑張りました。
- ・塩崎 幸子さん…パジャマのボタン掛けと、声掛けでトイレの電気を消すことが出来るようになりました。
- ・窪田 健太さん…リハビリ事業所和月でリハビリを頑張っています。

- ・西 順子さん……ゆうあいスポーツ大会に、笑顔で参加できました。
- ・碩 友美さん……CT検査を受けることができました。
- ・田畑 栄さん、猿渡 明弘さん、宝田 元気さん、森山 義範さん、里 喜美子さん、岡山 いずみさん、中田 信枝さん、酒井 真希さん……感謝祭の飾りつくりを頑張りました。

(親切賞)

- ・森山 義範さん…ゴミ捨てのときにゴミ箱のフタを開けてくれます。
- ・稲田 吉浩さん…友達のシーツ交換を手伝ってくれました。
- ・満林 アツ子さん…浴室で友達を気遣い、席を譲ってくれます。

看取りの研修会

利用者の幸せの為に私たちができること

11月14日(水)大和(やまと)診療所の医師、小川 信(おがわ しん)先生をお招きして第二回看取りの研修会を行いました。7月に行われた、第一回の研修会の復習の中では「看取り」という仕事に誇りをもって下さい。苦しんでいる人は、自分のこと(苦しみ)を分かってくれる人がいると嬉しい。逃げないで関わり続ける為に求められることは、誰かの支えになろうとする人こそ一番支えを必要としている。超高齢社会を迎え、在宅や介護の現場で「看取り」に対する心構えが必要になり、介護の疲弊を避ける為にエンドオブケアについて伝える事は重要だとのお話でした。復習後、事例検討ではグループに別れて看取りの援助ということで討議、発表を行いました。二度の研修の中で感じた事は、その人がどんな形で最後を迎えるかは、それを支える周りの方と過ごす日々の過程、笑ったり、泣いたりする事がいかに大切なのかということを感じました。これからも研修を重ね、利用者の幸せの為に私たちができることを続けていこうとを感じる研修会でした。(記事:市田)



第5回愛の浜園感謝祭

11月18日(日)に天気にも恵まれ、11月とは思えないくらい暖かい気候の中で第5回愛の浜園感謝祭が開催されました。今年で5回目となる感謝祭ですが、初めて他事業所(なのはな園さん、Authentic さん)も参加して下さい、また、オープニングセレモニーではジャンベ隊の演奏がありました。いつも以上に盛り上がった感謝祭になったのではないかと感じました。お客さんの中には「いつも陶芸品と野菜がすぐ売れるから～」と時間前に来て下さる方もいらっやして、とても嬉しく思いました。展示コーナーには利用者さんの作品だけでなく、地域の方の作品や珍しい置物などが集まり、多くの方に支えてもらっているという事を改めて感じました。販売コーナーでは、就労B型事業に通所している利用者さんが、「自分の作った物がいっぱい売れたよ。」と目をキラキラさせて喜んでいる姿を見て、私も胸が熱くなりました。色々なイベントと重なる中、多くの方が来て下さり、愛の浜園を知って頂きたい機会になったのではないかと思います。(記事:富田)



感謝祭に向けてみんなで創作活動をしました

テーマは一本の樹。愛の浜園の中庭に大きな木があります。この木は「トックリキワタ」という白い綿のような実がなる木です。今回、障害者スポーツ大会の幹事園となり記念品制作でうちわを作った際に、愛の浜園のシンボルマークのこの木を榮野園長が書き、一人ひとりの利用者さんに指でスタンプを押してもらい色とりどりの花を作りました。そのイメージのもと利用者さんに習字で「絆」と書いてもらい、その「絆」がしっかりと土になり大きな木を支える構図になっています。木に咲いている花は利用者さんが作り、みんなで咲かせたものです。これからも愛の浜園が笑顔で満ち溢れていく様に……という想いで作りました。(記事:財部)

